

全国学力・学習状況調査について

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

■全体として、問題を正確に読み取る力に課題が見られる。正答率は全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

【内容】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「情報の扱い方に関する事項」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「話すこと・聞くこと」

◆全国平均を下回っている。

「書くこと」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「読むこと」

◆全国平均を下回っている。

★課題として、**ほとんどの問題で全国平均に比べて無回答率が高いこと（設問によるが全国平均の2～5倍程度）**。
問題の意図を理解していない児童が多数いたことが想定されること。

今後は一見しても分からない問題でも、最後まで粘り強く取り組む経験を積み重ねること、一定の条件に合わせて文章化する取組など指導の工夫も大切にしていきたい。

●休み時間の過ごし方を動画にしてみんなに紹介する際に、映像だけでなく音声を工夫するための選択肢を適切に選ぶことに課題がある。

○テーマに沿った文章を書く際に、説明を具体的にするための文を書き加える条件に合う選択肢を適切に選ぶことができていない。

●休み時間の過ごし方を動画にしてみんなに紹介する際に【構成メモ】を作成することと、そのメモを生かして工夫して撮影するための選択肢を適切に選ぶことができていない。

●条件（引用、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する、140文字以内で書く）に合わせて書くことに課題がある。

⇒条件に合わない解答が多かった設問

●目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみること。文章を読んで理解したことに条件（自分の考えたこと、引用、経験）に基づいて、まとめることができていない。

⇒無回答率が特に高い設問

※話題や文章の種類とその特徴について理解を深められるような学習活動の充実。

※考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について一層理解を深められるような学習活動の充実。

※資料も活用して、自分の考えが伝わるような表現を工夫する学習活動の充実。

※筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるような学習活動の充実。

※目的に応じて、必要な情報を見付けることができるような学習活動の充実

国語では、課題を解決するために文章を読み、何を問われているのか？について理解を深める必要がある。また、**自分の考えをまとめる際には一定の条件を提示し、それらを満たして記述する力**を付けていく必要がある。

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

小学校
算数

■全体として、問題を正確に読み取る力が低く、また条件に合った解答に至らないこともあって正答率が全国平均を下回る結果となっている。

【領域】

「A. 数と計算」

◆全国平均を下回っている。

「B. 図形」

◆全国平均を下回っている。

「C. 測定・変化と関係」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「D. データの活用」

◆全国平均を下回っている。

★課題として、**ほとんどの問題で全国平均に比べて無回答率が高いこと（設問によるが全国平均の2～3倍程度）。**

自分の考えの根拠や数、算数で使う言葉を積極的に使って他者に伝える学習やグループでの交流等の指導の工夫も大切にしていきます。

●数を四捨五入して、概数で表すことができること。

⇒**無回答が全国に比べて顕著に多かった問題**

● $\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ の異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できること。

●単位分数の個数($\frac{5}{3}$)に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることができること

●立方体の体積の計算による求め方について理解すること

●示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができること。

●帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取ることができること。

※日常的に概数を使うことの良さを体験的に理解させる取組と、知識を定着させる学習活動の充実。

※分子や分母が等しいときの大きさ比較、分数の概念を繰り返し確認することができる学習活動の充実。

※面積や体積の求め方を中心とした数量関係について、繰り返し確認することができる学習活動の充実。

※算数に限らずグラフの読み取り方や、全体量と部分量を具体的な数量で読み取ることができるような学習活動の充実。

※上記同様の改善方向

学習課題や問題を解決する際に、グラフや表などの資料から必要な数値を読み取ること、分数の概念について**繰り返し練習問題に取り組む**などの学習活動の充実。

肯定的な回答が多いもの	概要	これまでの取組
◇「将来の夢や目標を持っていますか」	○「当てはまる」と答えた人が全国平均を上回っている	○これまでの学校生活や学校行事を振り返り、自分の成長を可視化するキャリアパスポートの活用
◇「自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する」	○「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた人が全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている	○9年間を見通した段階的な情報活用能力育成の取組の工夫
◇「英語の勉強は得意ですか」「英語の勉強は好きですか」	○「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた人が全国平均を上回っている	○言語を習得するためのチャレンツやゲーム形式の発声の工夫など英語に親しみやすい取組の工夫
肯定的な回答が少ないもの	概要	改善の方向
◆「自分には、よいところがあると思いますか」	●「あまりない」「ない」と答えた人が全国平均を上回っている	○ 自己有用感を醸成する機会 の充実【ふれあい活動・特別活動等】
◆「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」	●「そう思わない」「全く思わない」と答えた人が全国平均を上回っている	○ いじめはどんなことがあっても許されないという指導の継続 と該当者の思いをしつかりと表出させる聞き取りの仕方の工夫
◆「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」	●「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と答えた人が全国平均を上回っている	○総合的な学習の時間の内容を一新し、地域に根差した課題解決や、よりよい未来を創造することを目指した追究課題の充実【総合的な学習の時間】

下記は過去4回(H25・H28・R3・R6)の全国学力・学習状況調査や児童質問紙への回答傾向を経年変化で調査した資料にリンクします。また、保護者に対して【学校外での過ごし方】について質問した内容もありますので、ぜひ一読いただきお子さんの健やかな成長や学習環境整備について理解を深めていただければ幸いです。

[経年変化分析調査・保護者に対する調査結果資料：国立教育政策研究所 National Institute for Educational Policy Research](#)

出典：国立教育政策研究所([国立教育政策研究所 National Institute for Educational Policy Research](#))